

G108		学校園における農園芸実習	
英名科目名			
大学名	京都教育大学		
連絡先	教務課教務グループ TEL:075-644-8157		
担当教員	南山 泰宏(環境教育実践センター)		
開講期間	2021年04月15日(木)~2021年08月05日(木) 3~4講時 12時50分~16時05分 振替授業日 2021/04/26(月) 定期試験週を含む		
開講形態	前期・春学期	開講曜日・講時	
単位数	2	履修年次	
会場	第2学舎		
授業定員			
単位互換生定員	5	京カレッジ生定員	20
試験・評価方法	授業に12回以上出席した者を評価の対象にする。 実習への取り組み態度(40%)、提出用の記録ノート(30%)、期末課題レポート(30%)により評価する。		
超過時の選考方法	単位互換：書類選考 京カレッジ：抽選		
受講料	10,000円		
別途負担費用			
その他特記事項	<p>【会場】 京都教育大学環境教育実践センター(第2学舎、アクセス：https://www.kyokyo-u.ac.jp/access/access02/)</p> <p>【自学自習についての情報】 講義の内容や実習中の説明を毎回フィールドノートにメモし、授業後にこれを参考に提出用の記録ノートを作成すること。 授業時間以外でも環境教育実践センターに足を運び、植物の生育を観察すること。</p> <p>【アクティブラーニングに関する情報】 授業時間の大半がフィールドワークである。</p> <p>【担当講師についての情報】 担当教員は公立の農業研究機関で勤務した経験があり、実際の農業生産がどのように行われているか紹介しながら実習活動を行う。</p> <p>【注意】 京カレッジ生への単位認定は行いません。 車での来学はご遠慮いただいております。 教室は授業初回日に本学掲示板にて確認してください。</p>		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標	<p>【授業の概要】 本学の環境教育実践センター内の農場、温室において、作物、野菜、花卉を実際に4月から7月の前期の期間に栽培・収穫することにより、植物の生長に及ぼす環境要因の影響や植物栽培の知識・技能の基礎を学ぶとともに、植物を栽培する楽しみ、生命の不思議さ、農業の大切さや困難さを体験し、汗を流して勤労する喜びを理解する。また、有機物リサイクルシステムを用いて、作物残渣や生ゴミからの堆肥の作成やその利用による「食の循環」の意義を学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】 1.植物を栽培・収穫する活動を通して、農業の意義やその教育力を実践を通して理解できるようになる。 2.環境要因の影響下で植物を栽培するための知識・技術の基礎を習得し、教員になった際に実践できるようになる。</p> <p>【授業の形式】 講義と実習(フィールドワーク)</p>		
講義スケジュール	<p>第1回 環境センターの案内、ジャガイモの植えつけ</p> <p>第2回 スイートコーンの栽培(畑の準備と播種)、トマトの接ぎ木と育苗</p> <p>第3回 ジャガイモの土寄せ作業、ピーナッツの播種、春植え球根の</p>		

植え付け	
第4回 イネの播種、アサガオの播種、キクの挿し木	
第5回 スイートコーンの管理(中耕・除草)、夏野菜(ナス、トマト)・サトイモの定植、イチゴの試食	
第6回 タマネギの管理・収穫、アサガオの鉢上げ、緑のカーテンの準備	
第7回 サツマイモの植え付け、ピーナッツの定植	
第8回 田植え、ハボタン(ハボタン)の播種、スイートコーンの除穂	
第9回 アサガオの定植・仕立て、秋植え球根の掘り上げ、キクの鉢上げ・定植	
第10回 イチゴの採苗、プリムラ・マラコイデスの播種	
第11回 ナス・トマト等の管理(誘引・芽かき)、サトイモの管理(中耕・土寄せ)	
第12回 ジャガイモ収穫、ハボタン仮植え	
第13回 スイートコーン収穫・試食、収穫残渣(有機物)のリサイクル処理	
第14回 夏野菜(ナス・トマト等)の管理(整枝・剪定)・収穫	
第15回 九条ネギの掘りあげ・乾燥、サトイモの管理(土寄せ)	
教科書	必要に応じて資料プリントを配布する。
参考書	<p>「学校園の栽培便利帳」・日本農業教育学会 編・農山漁村文化協会・ISBN978-4-540-95079-7</p> <p>「学校園の観察実験便利帳」・日本農業教育学会 編・農山漁村文化協会・ISBN978-4-540-98056-5</p> <p>「応用植物科学栽培実習マニュアル」・森源治郎 他 監・養賢堂・ISBN978-4-8425-0058-1</p>